

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
毎月 1日発行
平成28年2月号

県産農林水産物取扱い協力店の登録制度創設について

流通販売課 販売・輸出促進室

千葉県は豊富な海の幸・山の幸に恵まれた食材の宝庫です。
その県産食材の魅力を発信するため、県では、飲食店を対象とした
「Chef's CHIBA (シェフズ・ちば) (県産農林水産物取扱い協力店)
登録制度を創設しました。



【登録証】

1 飲食店登録制度の創設について

県では、県産農林水産物のイメージアップ及び消費拡大を図り、それらの優れた食材がもつおいしさや特徴をより多くの消費者に伝えるため、人口が集中する首都圏都市部(※)において、その魅力を積極的にPRしている飲食店を対象とした「Chef's CHIBA」登録制度を創設することとしました。

※東京都、千葉県(千葉市・市川市・船橋市・松戸市・習志野市・柏市・流山市・八千代市・鎌ヶ谷市・浦安市)、神奈川県、埼玉県

2 Chef's CHIBA について

本制度に登録する飲食店には「Chef's CHIBA」という愛称をつけ、来店者に周知できるように、店内に登録証を掲出することとしています。

Chef の 4 文字にはそれぞれ、club (クラブ)、harvest (収穫) / haul (漁獲)、excellent (優れた)、food (食) の意味が込められており、「シェフが優れたちば食材を提供する店」であることを表しています。

3 Chef's CHIBA 登録店の主な役割

Chef's CHIBA 登録店の主な役割は、①年間を通じて、県産食材が持つおいしさや特徴を

首都圏都市部の消費者に伝えること、②自らが運営するウェブサイトやメニュー等を活用し、県産食材を積極的にPRすること、③県が主催するフェアへの参加、県産食材に関するアンケート等に協力すること、の3点です。

4 Chef's CHIBA の普及・啓発について

本制度の創設に当たり、1月28日に制度の概要及び登録店舗(10店舗)について報道発表し、同月29日に登録証の交付式を行いました。

今後、県では登録店へ県産食材の紹介や販促資材の提供を行うほか、県ホームページ等での情報発信により当制度の普及・啓発に努めていきます。

5 千葉の味覚フェアの開催について

2月1日から29日までの1ヶ月間、Chef's CHIBA 登録店をはじめ、県産食材を使ったメニューを提供する県内外の飲食店、計54店舗が参加する「千葉の味覚フェア」を開催します。

参加店舗は、県ホームページ又はJR主要駅内にある県政ふれあいコーナーに設置するフェアリーフレットで確認することができます。

【千葉の味覚フェアについて】

<http://www.pref.chiba.lg.jp/ryuhan/pbmgm/norin/torikumi/hanbai/topics/mikakufair2702.html>

流通情報



青果専門店に千葉のさつまいもをPR！ 「さつまいも産地見学会」

流通販売課 首都圏マーケティングセンター
技師 河合 孝紀

都内の青果専門店（いわゆる八百屋や業務用の卸等を営む専門事業者）に、本県産さつまいもの特性や魅力に対する理解を深めてもらい、今後の販売促進につなげることを目的として産地見学会を開催したので、その概要を紹介します。

1 はじめに

市場に入荷した青果物の中で、ロットや規格、品質などが量販店等での販売に向かない商品は、主に八百屋などの青果専門店で販売されており、市場流通において、青果専門店は必要不可欠な販売先として重要な位置づけとなっています。

また、青果専門店は、青果物に対して豊富な知識を持ち、顧客との会話や営業活動を通じて、商品のこだわりや産地の魅力、旬、食べ方など、様々な情報を伝えることができます。

そこで、この青果専門店を通じた県産さつまいもの販売促進を図るため、11月8日（日）千葉県・全農千葉県本部・JAかとり・東京青果㈱の共催により、「さつまいも産地見学会」を開催しました。

2 実施内容

参加者は、最初に、JAかとり香取西部園芸部甘しょ育成研究会の宇井会長宅を訪問し、土づくりや貯蔵方法など、さつまいも栽培へのこだわりについて話を伺いました。JAかとり栗源集送センターでは、キュアリング貯蔵施設を見学した後、農家から集荷されたさつまいもが、規格に合わせて選別される作業を実際に体験し、千葉県産さつまいもの生産出荷について、理解を深めました。



生産者の工夫、こだわりに関心が集中

「道の駅くりもと体験工房」では、産地側から焼き芋による主要品種の食べ比べや、様々なさつまいも料理の提案を行い、品種特性を考慮した販売の重要性を訴えました。



様々なさつまいも料理を提案

参加者からは、この産地見学会に参加して、「産地の栽培や出荷の苦勞が良く理解できた」、「産地で話を聞かないとわからないさつまいもの新しい魅力が発見できた」、「今後の営業のヒントが得られた」などの感想が寄せられました。

3 新たな販売先の獲得を目指して

産地見学会終了後、ある参加者から「納め先の社員食堂で、千葉県産さつまいもの食べ比べをしたい」との御提案をいただきました。

この提案を受け、現在何件かの企業での実施を計画しています。

このように、産地見学会に参加した青果専門店を通して、今まで繋がりのなかった販売チャネルへの売り込み機会がうまれるなど、更なる広がりを見せています。

首都圏マーケティングセンターでは、量販店に向けた販売促進活動と併せ、青果専門店を通じた販売促進にも積極的に取り組んでまいります。

頑張る産地



お客様の求めるぶどう作りを目指して

香取農業事務所 改良普及課
普及指導員 林 めぐみ

香取市のぶどう栽培は、昭和 36 年に畑作からの転換で始まりました。直売を中心に現在まで続く県内有数の産地です。その中で、後継者ととともに味と消費者ニーズにこだわったぶどう栽培を行う「菅谷晁ぶどう園」を紹介します。

1 産地の概要

香取市のぶどうは、香取市栗源ぶどう組合（組合員 9 名、約 7ha）を中心に栽培されています。

ぶどう栽培は、昭和 36 年に畑作物からの転換で始まり、現在では、ほぼ全面積がハウス栽培（被覆栽培含む）で、ちばエコ農産物の産地指定を受けて巨峰とデラウェアを中心に栽培している県内有数の産地です。

2 経営の概要

「菅谷晁ぶどう園」は、昭和 36 年から 50 年以上続くぶどう農家で、園主の菅谷晁さんで二代目になります。また、三代目となる後継者の有希子さんも就農しています。

経営面積は 140a で、全てハウス栽培（被覆栽培含む）です。労力は家族 4 名（晁さん夫婦、後継者、母）と常雇用 1 名で、摘粒や袋掛けの時期には臨時雇用も入れています。

販売は、自宅直売所（ぶどう狩を含む）を主体に、道の駅や契約販売により、6 月下旬から 9 月下旬まで行っています。

3 栽培の特徴

現在、巨峰、デラウェア、シャインマスカットを主体に合計 18 品種を栽培しています。新しい品種を積極的に導入し、直売所に来るお客様の感想を参考にして、栽培品種を選定しています。特に、皮ごと食べられ種がなく味も良いシャインマスカットに注目しており、香取地域で高品質のものを栽培する方法を模索中です。

また、販売期間を通じて贈答用に 3 色（黒、赤、緑）のぶどうを組み合わせられるように栽培品種構成を意識しています。

味の良い高品質なぶどうをお客様に食べてもらうため、先進農家での研修や香取市栗源ぶどう組合内での情報交換を行い栽培技術の向上を図っています。さらに、有機質主体の肥培管理や適期収穫により、美味しいぶどうを提供しています。



注目している「シャインマスカット」

4 今後に向けて

味にこだわり、お客様に喜んでもらえるぶどう作りを目指して、地域の仲間と技術の向上に取り組んでいきたいと語っておられました。



せん定をする晁さんと後継者の有希子さん

頑張る産地



パッションフルーツで元気な産地に ～経営の多角化にチャレンジする君津の鉢花経営体～

君津農業事務所 改良普及課
主任上席普及指導員 本居 聡子

木更津市・袖ヶ浦市の花き経営体を中心とするグループ「熱帯村」が、パッションフルーツを活用して、グリーンカーテン苗・実付き鉢物等の生産のほかに、果実や加工品の販売、栽培体験、レイやアレンジメントの作成体験などを行い、経営の多角化により収益を伸ばしています。

1 「熱帯村」の結成

鉢物需要は全国的に平成 17 年を境に、景気の低迷により年々減少傾向となり、価格低下も続いていました。君津管内には熱帯花きや観葉植物を扱う鉢物生産者が多く、鉢物需要の減少と燃油高騰で、厳しい状況が続きました。

このような中で、鉢花生産者の研修会で、施設栽培が可能で低温に強く、加工に向き、食品として今後の伸びが期待できるパッションフルーツに着目し、栽培希望者 5 名（4 戸）で平成 21 年 10 月に「木更津袖ヶ浦熱帯花き果樹研究会・熱帯村」が組織化されました。

メンバーは「チャレンジ・パッション！」を合言葉に、パッションフルーツの栽培を始めました。



パッションフルーツの果実

2 「熱帯村」メンバーのチャレンジ

「熱帯村」会員は、パッションフルーツを導入し、グリーンカーテン苗・実付き鉢物等の販売や果実等の販売とともに経営を多角化し、収益を伸ばしています。

施設栽培の中で隔離することにより農薬を使わない栽培が可能となり、3 重被覆をすることにより冬季無加温での栽培を確立することができました。また、剪定による早期開花技術と冬実の追熟技術を検討することにより、夏実は 6 月から 10 月中旬、冬実は 12 月から 3 月まで出荷が可能となりました。

食品加工分野では、農業事務所が主催する“新”起業家チャレンジセミナーに 4 名（3 戸）が参加して商品開発を行い、1 戸が菓子製造業・飲食店営業の許可を取得して、6 次産業化に積極的に取り組んでいます。

さらに、地域でのパッションフルーツの認知度アップを図るために、木更津市・JA 木更津市等と関係機関と連携して、販売促進イベント(パッションフルーツで感じる夏 2013、2014)等を開催し、農業事務所も支援をしました。

3 「熱帯村」のこれから

果実や加工品を販売することによって、ファーマーズマーケットでの販売など、新たな販路が生まれました。会では、「熱帯村ブランド」の濃縮ジュースの開発により、更なる事業拡大に取り組もうとしています。

また、パッションフルーツ栽培による就農を希望する新規就農者も会員に加わり、現在、会員は 10 名（7 戸）となりました。パッションフルーツ以外の熱帯花き・熱帯果樹の栽培にもチャレンジしていきたいと、会員たちは語っています。

今後も、関係機関と連携を図りながら、熱帯村の活動を支援していきます。



会員の加工品（パッションフルーツのおこし）

頑張る産地



創意工夫を凝らした花壇苗の生産を目指して 成田市・農事組合法人花の生産舎組合

農事組合法人花の生産舎組合

千葉県は花壇苗の生産が盛んで、全国第 3 位です。地域農業と連携し、花き生産を行う事例として、成田市の農事組合法人花の生産舎組合の取組を紹介いたします。

1 花の生産舎組合の紹介

農事組合法人花の生産舎組合は、昭和 47 年に設立し、成田市と芝山町の農場で花壇苗や野菜苗を生産するとともに、花壇の植栽やメンテナンス事業等を行っています。

当組合が花壇苗を生産するに至った背景として、ベトナム戦争の難民孤児の救済により戦争の悲惨さを体験したことが契機で、「平和の象徴」として、花の生産を始めました。設立の翌年に、「花のパイロットファーム」の開設とテストセールスを展開し、花の生産と消費を一体的に、企業との直接の年間契約でフラワーリース（現在でいう 6 次産業化）を始めました。

現在は、花壇苗の生産を主流に、成田市などの自治体、企業、テーマパーク及び高速道路の SA 等の花壇苗の植栽や、成田空港内の飾花装飾など管理も実施しています。

また、平成 27 年度に国庫事業等を活用し、成田市十余三地区に低コスト耐候性ハウス（約 4,000 m²）を整備し、花壇苗の生産及び出荷販売を開始しました。



低コスト耐候性ハウス

2 創意工夫による商品開発

当組合では、底面給水付プランターや 3 分割カットパック（通常の 1 ポットに 3 株入ったもの【実用新案】）を開発しました。底面給水付きプランターは、消費者及び企業と年間リース契約を結んでいます。また、3 分割カットパックは、「近隣の小学校の先生が花壇用の花苗を購入した際、3 本植

えのサルビアがないか？」「購入後、直ちに子供たちがばらして植えられるものがほしい」との現場の要望を具現化するために新商品として開発したものです。今後も、経営規模拡大と付加価値をつけた商品の企画開発を進めてまいります。



写真上下 3 分割カットパック
（通常の 1 ポットに 3 株入ったもの）



3 終わりに

当組合が花壇苗の生産を始めて約 40 年が経過しようとしています。これからも、「成田国際空港」を核とした地域の活性化が図れるよう、担い手の育成や地域の雇用の場を確保するとともに、将来的には花を福祉や教育にもつなげていきたいと考えております。

さらに、原点となったベトナム、韓国、中国等の園芸業界の青年達と草の根的に、花（平和）の交流を夢見ています。

「世界らん展日本大賞 2016」の開催

洋蘭、東洋蘭、日本の蘭など、世界各地の様々な蘭を一堂に集めた“世界の蘭の祭典”「世界らん展日本大賞」が、本年も下記のとおり開催されます。

今回で 26 回目を迎えるらん展は、約 3000 種、約 10 万株、250 万輪以上の蘭が展示され、世界を代表する蘭の祭典となっています。

日本大賞の審査は、全 6 部門で行われ、そのうちディスプレイ審査部門では、フラワーデザイナーや華道家だけでなく、蘭愛好家のグループや学生、生産者が出展し、その技術とセンスで蘭の魅力をいかに引き出せるかを競います。

本県の洋らん生産者では、千葉県洋らん生産者組合が出展する予定となっております。

らん展の詳細については、ホームページで御確認ください (<http://www.jgpweb.com/>)。

記

- 1 主催：世界らん展日本大賞実行委員会
- 2 会場：東京ドーム
(東京都文京区後楽 1-3-61)
- 3 日程：平成 28 年 2 月 13 日(土)～19 日(金)
- 4 公開時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時 30 分
(入場は午後 5 時まで)
- 5 入場料金：前売券 1,900 円
当日券 2,200 円



前回最優秀賞を受賞した千葉県洋らん生産者組合の作品

第 36 回千葉県フラワーフェスティバル花き共進会結果報告

平成 28 年 1 月 7 日に行われた第 36 回フラワーフェスティバル花き共進会の審査結果は次のとおりでした。

- 出品点数 558 点 (鉢花 138 点、観葉 41 点、洋らん 60 点、切花 1 部 190 点、切花 2 部、129 点)
- 入賞 107 点 (特別賞 34 点、金賞 73 点)
- 奨励賞 3 点 (鉢花 1 点、洋らん 1 点、切花 1 部 1 点)

【主な特別賞受賞者】

賞名	品目	受賞者
農林水産大臣賞	カラー	河野 忠夫
千葉県知事賞	エラチオール・ベゴニア	吉田 良和
千葉市長賞	ストレリチア	高橋 繁之
千葉県議会議長賞	カーネーション	村岡 慎一
農林水産省生産局長賞	カトレア	大和田 浩史
関東農政局長賞	カトレア	榎本 茂
公益社団法人 千葉県園芸協会会長賞	キンギョソウ	小泉 輝子
一般社団法人 千葉市園芸協会会長賞	ナンテン	林 隆弘
NHK 千葉放送局長賞	シクラメン	川島 浩和
千葉県農業協同組合 中央会長賞	オリエンタル ユリ	太田 喜明
千葉県花き園芸組合 連合会長賞	ストック	小谷 国彦

他 23 賞



特別賞受賞作品